主　題：雅歌において描写されている、勝利を得る生活

標　語

雅歌は詩の形式での、キリストを追い求める者の生活の
すばらしい生き生きとした描写であり、
キリストの花嫁の用意を整えるための、
個別の信者とキリストとの愛の交わりの
進展していく経験を明らかにしています。
聖書が啓示しているのは、
神が人と成ってわたしたちに求愛したということ、
また今やわたしたちが彼に求愛して、
彼との個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を通して、
神聖になって彼を表現することを、
神が願っているということです

神は、自分自身の中で強い者を願いません。
勝利者と勘定される者は、
からだの原則の中で完全に主に依り頼んでおり、
寄る辺なき者のようにキリストに信頼する、より弱い者たちです。

わたしたちはわたしたちの愛する方の御声、
すなわち、彼の個人的で、特定の、直接的な語りかけを
日ごとに、個人的に聞く必要があります。
それによって、わたしたちは用意を整えて彼の栄光の花嫁となり、
それは、彼が再び来て、
わたしたちと結婚することができるためです――
「園の中に住む者よ.
わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています.
わたしにそれを聞かせてください」――雅 8:13

「主が来られる時、信仰は事実となり、
祈りは置き換えられて賛美となります。
愛は影のない完全なものとなり、
わたしたちは罪のない領域で主に仕えます。
それは何という日でしょう！
主イエスよ、すぐに来てください！」
――ウオッチマン・ニー

©2026 Living Stream Ministry

メッセージ　1

雅歌の第一段階――引き寄せられキリストを追い求めて、満足を得る

聖書：雅 1:1―2:7．ヨハネ 14:21，23．21:15-17

Ⅰ．「歌の中の歌、これはソロモンの歌である」は、詩的な表現、言葉、語句における、キリストを愛する者の霊的な歴史の記述です。それは詩の形式での、キリストを追い求める者の生活のすばらしい生き生きとした描写であり、キリストの花嫁の用意を整えるための、個別の信者とキリストとの愛の交わりの進展していく経験を明らかにしています――雅 1:1．啓 19:7．参照、列王上 4:32：

A．雅歌は伝道の書と対照をなしています。伝道の書は、「日の下」でのすべての積極的な経験と消極的な経験が「空の空」であることを示しています――伝 1:2-3。

B．雅歌は、キリストが人生の、歌の中の歌、満足の中の満足であることを強調し、それは「日の下」にある万物の空の空と相対します。

C．ある事がどれほど良く、卓越し、すばらしく、不思議であっても、それが旧創造のものである限り、「日の下」にある空の空の一部分であって、「風を捕らえるようなもの」です（伝 1:14）。伝道の書におけるソロモンの結論は、人生の領域が、その終わりがみじめである堕落した人にとって、弔いの歌のようなものであるということです。

D．天にあり、「日の下」にない新創造だけが、空ではなく実際です。「重要なのはただ新創造です」――ガラテヤ 6:15：

1．旧創造は、神聖な命と性質を持っていません。しかし、神から再び生まれた信者たちによって構成されている新創造は、それを持っています――Ⅱコリント 5:17．ヨハネ 3:15．Ⅱペテロ 1:4。

2．こういうわけで、パウロはわたしたちに、「上にあるものを求めなさい．そこにはキリストがいて、神の右に座しておられます」（コロサイ 3:1）、また「あなたがたの思いを、地にあるものにではなく、上にあるものに置きなさい」（2 節）と命じています。

E．神は人をご自身のかたちに創造し、人の中に霊を形づくって、人が神を受け入れ、内容とするようにしました（創 1:26．2:7）。さらに、伝道の書がわたしたちに告げているのは、神が人の心に「永遠」を置いたということです。それは「神が植えられたものであり、歴代、働いてきた目的のある感覚であって、日の下では、神以外に、何もこの感覚を満足させることはできない」ものです（伝 3:11――詳訳聖書）：

1．わたしたち自身の経験によれば、人生において成功を収めるときはいつでも、内側にむなしさを感じることを、わたしたちは知っています。この事が示しているのは、人の内側には永遠のものに対する切望があるということです。

2．神がそのような切望、そのような求めることを人の心に置いたのは、人が神を求めるためです――参照、使徒 17:26-27。

3．人生におけるどのような成功の享受も、すべて終わります。肉体の命のあらゆる種類の物質的なものには、「終わりの日」があります――ヨハネ 7:37。

4．暫時的な事物は決して人を満足させることはできません。永遠の神、すなわち歌の中の歌としてのキリストだけが、人の心の深い、目的のある感覚を満足させること

ができます――Ⅱコリント 4:18。

Ⅱ．わたしたちがキリストを追い求めることにおけるすべての霊的な原則が、雅歌の追い求める者の勝利を得る生活の第一段階に含まれています。それに続く学課は新しいものではなく、むしろ、さらに深い方法で繰り返された以前からある学課です――雅 1:2―2:7：

A．再生は神の遺伝子をわたしたちの中へともたらします。わたしたちのクリスチャン生活全体のすべての経験は、この遺伝子の中にあります――Ⅰヨハネ 3:9. マルコ 4:26。

B．原則として、雅歌における霊的な高い点はすべて、すでにわたしたちのものです。なぜなら、それらは、神の遺伝子、神の種、神の命の中にあるからです。神の遺伝子、神の種、神の命は、わたしたちの中へと分与されており、またわたしたちの中で成長します――ローマ 8:10．コロサイ 2:19。

Ⅲ．命はパースン、キリストご自身であり、彼を愛することによる以外に、このパースンを享受する道はありません――マルコ 12:30．Ⅰコリント 2:9：

A．わたしたちが極みまで主を愛し、一日中、彼を命の木として享受するなら、召会は、その状態がどのようであっても、直ちにわたしたちにとってパラダイスとなります――啓 2:4，7．Ⅱコリント 12:4 とフットノート 1．ルカ 23:42-43。

B．わたしたちの命としての主はパースンであるので、わたしたちは彼と接触しなければなりません。過去にどれほどキリストを経験し享受してきたとしても、わたしたちはいつもキリストの現在の臨在、現在のパースンを必要とします。わたしたちの主イエスは、「今、分与しているキリスト」です――ヨハネ 8:12．ピリピ 3:13-14。

C．ヨハネ第 14 章 21 節と 23 節が示しているのは、御子がご自身を、彼を愛する者に現すということ、また御父が彼と共に来て、御子を愛する者と共に住まいを造るということです：

1．わたしたちは主イエスを愛して、「主イエスよ、あなたを愛します」と言う必要があります。わたしたちが彼を愛するとき、彼はご自身をわたしたちに現します。これが意味するのは、わたしたちが愛する方との交わりの中で、彼の臨在を持つということです。

2．わたしたちがイエスを愛するなら、イエスはわたしたちを愛し、御父もわたしたちを愛します。御子がご自身をわたしたちに現し、ご自身をわたしたちにとって実際とするとき、御父は彼と共に来て、わたしたちと共に住まいを造り、わたしたちに享受させます――参照、Ⅰコリント 2:9-12。

D．すべての人の主に対する愛の開始は、彼のパースンについてのビジョンです。わたしたちは、主に対する新しい認識と彼に対する新しいビジョンがなければ、前進することができません――使徒 26:14-19．Ⅱコリント 4:6-7．ピリピ 3:8-10 前半，13．参照、申 4:25。

Ⅳ．わたしたちと主との関係は個人的なものでなければなりません――「わたしを引き寄せてください」は個人的です（雅 1:4）。わたしたちが主によって個人的に引き寄せられるので、他の人たちも、わたしたちを通して主に引き寄せられます（エレミヤ 31:3．参照、Ⅱコリント 11:2）：

A．わたしたちは、主との個人的な関係を持ってきた人たちの模範に従う必要があります：

1．わたしたちはアブラハムの模範に従う必要があります。アブラハムは、神の友であ

り、神の願いのためでした――歴代下 20:7．イザヤ 41:8．ヤコブ 2:23．創 18:1-33。

2．わたしたちはモーセの模範に従う必要があります。モーセは、神の臨在を完全な程度に持っており、神の仲間であり、神の権益のためでした――出 33:11-14。

3．わたしたちはダビデとアサフの模範に従う必要があります。彼らは神の家の中で、また神の家のために、神の輝く御顔を尋ね求めました――詩 27:4，8．80:3，7，14-19。

4．わたしたちは主イエスの模範に従う必要があります。彼は絶えず神の御前で生きました。彼は一瞬一瞬、御父の御顔を見ていました――使徒 10:38 後．ヨハネ 8:29．16:32。

5．わたしたちはペテロの模範に従う必要があります。ペテロの主に対する愛が回復されたのは、彼が、自分の天然の強さに少しも信頼せずに、主の羊を牧養し、殉教に至るまで主に従うためでした――ヨハネ 21:15-19．マルコ 16:7。

6．わたしたちはパウロの模範に従う必要があります。パウロはキリストの愛に押し迫られ、キリストの大使としてキリストの御前で生きて、キリストに喜ばれました――Ⅱコリント 2:10．5:9，14-15，20。

B．主を愛し追い求める者が、主との最も個人的な接触を持つことを願っていることは、「口づけ」という言葉で表現されています。口づけは、主との個人的な関係の表現です。なぜなら、だれも同時に二人の人に口づけすることはできないからです――雅 1:2。

Ⅴ．わたしたちと主との関係は愛情深いものでなければなりません――「彼の口の口づけをもって、わたしに口づけしてください！」――「わたしに口づけしてください」は愛情深いものです――雅 1:2：

A．詩篇第 2 篇 12 節は言います、「御子に口づけせよ．……幸いである、すべて彼の中に避け所を得る者たちは」：

1．御子の中に避け所を得るとは、御子キリストの中へと信じ（ヨハネ 3:16，36）、彼をわたしたちの避け所、保護、隠れ場とすることです（詩 18:1-2．31:19-20．34:8．57:1．71:1．91:1-2，4，9．118:8-9．144:2．箴 30:5）。

2．御子に口づけするとは、御子を愛し、こうして彼を享受することです――ヨハネ 14:21，23．参照、詩 91:14。

3．主を信じるとは彼を受け入れることです（ヨハネ 1:12）。主を愛するとは、わたしたちが受け入れた主を享受することです。これらは、わたしたちが主にあずかるための二つの条件です（Ⅰコリント 2:9．参照、16:22）。

B．わたしたちが主との愛情深い関係を持つとき、彼は多くの面で、わたしたちにとって計り知れないほど豊かになって、わたしたちの享受となります――エペソ 3:8．2:7．ローマ 10:12-13：

1．わたしたちに内住している主は、わたしたちの御父であり、また恵みはわたしたちの母です――ローマ 8:15-16．ガラテヤ 4:24-26．イザヤ 66:12-13。

2．わたしたちに内住している主は、わたしたちの夫です――マタイ 9:15．Ⅱコリント 11:2。

3．わたしたちに内住している主は、わたしたちの兄です――ヨハネ 20:17．ローマ

8:29。

4．わたしたちに内住している主は、わたしたちの友です――マタイ 11:19．ヨハネ 15:12-17。

5．わたしたちに内住している主は、わたしたちの助言者です――イザヤ 9:6。

6．わたしたちに内住している主は、わたしたちの弁護者です――Ⅰヨハネ 2:1。

7．わたしたちに内住している主は、わたしたちの慰め主です――ヨハネ 14:16．15:26。

8．わたしたちに内住している主は、わたしたちの牧者です――詩 23:1．Ⅰペテロ 2:25。

Ⅵ．わたしたちと主との関係は私的なものでなければなりません――「王はわたしを彼の奥の間に連れて行かれた」（雅 1:4 後半）。王の奥の間は、キリストの奥の間としてのわたしたちの再生された霊を表徴します（Ⅱテモテ 4:22．エペソ 3:16．2:22）：

A．わたしたちはひそかで、明確な、優勢な方法で、私的に主と接触し、わたしたちの全存在を彼に開いて、彼の照らしと注入を受ける必要があります――マタイ 6:6。

B．地上での最高の職業は、時間を費やして神を注入していただき、わたしたちが神をもって光を放ち、神を輝かし出すことです――出 33:11．Ⅱコリント 3:16，18．4:1．参照、マタイ 14:23．マルコ 1:35．ルカ 5:16．6:12．9:28。

C．わたしたちはキリストをわたしたちの隠れ場、住まい、満ち足りる秘訣として経験し、享受する必要があります――詩 31:20．27:5．90:1．91:1．ピリピ 4:13。

Ⅶ．わたしたちと主との関係は霊的なものでなければなりません（雅 1:4 後半）。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの人の霊（王の奥の間）に住んでおり、これら二つの霊は共にミングリングされて、一つ霊となっています（ヨハネ 4:24．ローマ 8:16．Ⅰコリント 6:17）：

A．キリストは霊的にわたしたちを訪れます。なぜなら、彼はわたしたちの霊の中の命を与える霊であるからです。わたしたちの霊は至聖所であり、それは主の主また王の王としての霊なるキリストの奥の間です――Ⅰコリント 15:45 後半．ローマ 8:16．Ⅱテモテ 4:22。

B．キリストのからだのためにキリストと接触し、キリストを享受するために、わたしたちはミングリングされた霊を活用しなければなりません――Ⅰコリント 2:15 とフットノート 1．エペソ 1:17．2:22．3:5，16．4:23．5:18．6:18。

Ⅷ．わたしたちと主との個人的で、愛情深い、私的で、霊的な関係は、わたしたちが彼の定められた御旨のために彼を愛するようにさせ、わたしたちを「酒宴の家」としての召会生活の中へと導きます（雅 1:7-8．2:4）。そこでわたしたちは、造り変える霊によって造り変えられ、召会生活の中の成就する者たちによって成就されることができます（エペソ 4:11-12）。これらの成就する者たち（あるいは「造り変える者たち」）は、造り変える霊と組み合わされて、三一の神をわたしたちの中へと供給することによって、わたしたちを成就します。それは、三一の神の属性がわたしたちの中へと造り込まれることによってわたしたちが造り変えられ、わたしたちの美徳となり（雅 1:10 後半-11）、キリストの有機的なからだとしての召会を建造して、新エルサレムを究極的に完成し（Ⅰコリント 3:12 前半．啓 21:18-21）、神の永遠のエコノミーを完成するためです。

©2026 Living Stream Ministry